

企業の資本構成とイスラム金融： 実証分析による理論的整理

永野 護

名古屋市立大学教授 mnagano@econ.nagoya-cu.ac.jp

要 約

本稿は、世界最大のイスラム債市場を持つマレーシアと、イスラム銀行市場を持つ中東湾岸6カ国に焦点を充て、同地域においてイスラム債発行、イスラム銀行借入を実施した企業の特徴を分析した。他の資金調達手段を利用する標本企業との比較分析の結果は次の通りである。第一に、イスラム金融を用いた資金調達は、債券発行、銀行借入ともに、通常の銀行借入、普通債発行等よりも、資金調達序列上、優先的に用いられている。すなわちイスラム金融は、内部資金の次に用いられ、次いで通常の外部資金調達手段が選択される。第二に、イスラム金融利用企業の条件は、規模が大きく、収益性が高いことが前提であるが、必ずしもこれらの企業の成長性や生産性が未利用企業を上回っているわけではない。つまり、イスラム金融の利用と企業の事業活動は必ずしも強い関係を持つわけではない。第三に、イスラム金融による大企業の資金調達は、同業種内他企業の資金調達に寄与している傾向が見られる。この点は、特にマレーシアにおけるビジネス・グループ内金融の存在が影響を与えているものと思われる。

JEL コード : G20、G21、G32

キーワード : 企業金融、債券発行、イスラム金融